

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】令和4年12月5日(2022.12.5)

【国際公開番号】WO2022/137707

【出願番号】特願2022-538913(P2022-538913)

【国際特許分類】

B 3 2 B 27/00(2006.01)

C 0 9 D 133/00(2006.01)

C 0 9 D 125/14(2006.01)

C 0 9 D 5/02(2006.01)

10

【F I】

B 3 2 B 27/00 B

C 0 9 D 133/00

C 0 9 D 125/14

C 0 9 D 5/02

【手続補正書】

【提出日】令和4年6月23日(2022.6.23)

【手続補正1】

20

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

少なくとも片方の基材表面に連続する2層以上の塗工層を有する機能性材料であって、基材に直に接する塗工層(X)が、酸価35～65mg KOH/gの合成樹脂(A)を含み、最表面の塗工層(Y)が、ガラス転移温度-35～65℃の合成樹脂(B)を含み、全塗工層中に合成樹脂の合計質量に対し0.5～10質量%のワックス成分を含み、合成樹脂(A)または合成樹脂(B)が、ワックス存在下に乳化重合することにより得たものであることを特徴とする機能性材料。

30

【請求項2】

合成樹脂(A)がスチレンアクリル樹脂および／またはアクリル樹脂であり、合成樹脂(B)がスチレンアクリル樹脂および／またはアクリル樹脂であることを特徴とする請求項1に記載の機能性材料。

【請求項3】

合成樹脂(A)および合成樹脂(B)の構成モノマーが、カルボキシ基を有するビニルモノマー／(メタ)アクリル酸エステル／スチレン類=4.5～10/40～95.5/0～51質量%であることを特徴とする、請求項1または2に記載の機能性材料。

40

【請求項4】

基材が、紙またはフィルムであることを特徴とする請求項1に記載の機能性材料。

【請求項5】

少なくとも片方の基材表面に連続する2層以上の塗工層を有する機能性材料の製造方法であって、基材表面に酸価35～65mg KOH/gの合成樹脂(A)を含むエマルジョンを塗工して塗工層(X)を形成する工程(I)、および塗工層の最表面にガラス転移温度-35～65℃の合成樹脂(B)を含むエマルジョンを塗工して塗工層(Y)を形成する工程(II)を有し、全塗工層中に合成樹脂の合計質量に対し0.5～10質量%のワックス成分を含み、合成樹脂(A)または合成樹脂(B)が、ワックス存在下に乳化重合することにより得たものであることを特徴とする、機能性材料の製造方法。

50

【請求項 6】

合成樹脂（A）の塗工量が $6.0 \sim 30 \text{ g/m}^2$ であり、合成樹脂（B）の塗工量が $3.0 \sim 6.0 \text{ g/m}^2$ であることを特徴とする請求項 5 に記載の機能性材料の製造方法。

10

20

30

40

50